

# 高精度・高性能な製品開発を実現 理研興業が立山アルミと技術提携 翼型防雪柵『スノーブレイド』の販売開始

## 両社の優れた技術を融合 スノーブレイド 効果領域を飛躍的に拡大

防雪柵メーカーの理研興業(小樽、柴尾耕三社長)

は、アルミ建材メーカー大手の立山アルミニウム工業(富山県高岡市、要明英雄社長)と技術提携契約を締結。今回、両社が共同で研究開発した翼型防雪柵・スノーブレイドの販売開始を手に、今後も両社が持つ優れた技術を融合し、社会のニーズに応える画期的な製品の開発・供給に努めていく考えだ。

立山アルミニウム工業は、昭和二十三年に設立され、ビル・住宅建材を中心に、様々なアルミ製品を製造・販売する業界大手。自由な発想と独創性に富んだ研究開発力、製造工程の自動化と合理化による高品質で付加価値の高い商品群など、その高い技術と商品力で躍進を遂げている。

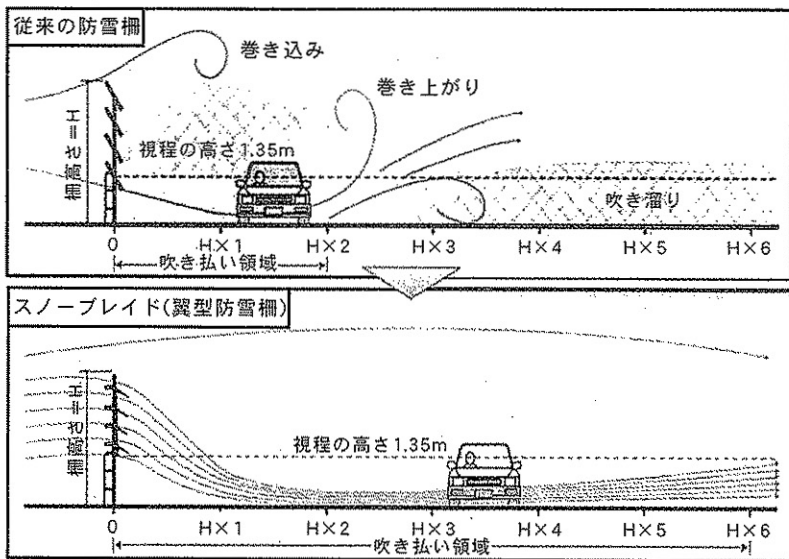
この技術提携は、立山アルミが特許を持つ翼型防雪柵に着目した理研興業が、

同社が有する防雪柵のノウハウを提供。高精度かつ高性能の製品開発を共同で実現しようとするもの。今回、その第一弾として販売が開始された翼型防雪柵『スノーブレイド』は、防雪柵を構成する翼板にシューコフスキー翼を採用。柵下流での流れの巻き上がりを防止し、濃度の高い吹雪を地面に沿って道路幅全体に渡って移動

させ、吹き払うことを可能にした高性能防雪柵。柵高の六倍以上という飛躍的な効果領域を有するのが最大の特徴で、道路幅が二十メートルを超える高規格道路にも対応する画期的な製品として、早くも関係者の注目を集めている。シューコフスキー翼を採用した防雪柵は、北見工大の坂本弘志教授と立山アルミが共同で研究開発したもので、製品化にあたって、防雪柵メーカーとして五十年の歴史を持つ理研興業のノウハウを生かした。フラットな形状の防雪柵を用いた従来の防雪柵は、防雪板間を通過する流れと下部間隙流との干渉が激しく、柵高の1・五〜二倍下流で吹雪が巻き上がり、視程の悪化と吹き溜まりを生じさせていた。このため、翼形状の防雪柵を採用することで、風を遮ることなくその力を有効に利用。広範囲にわたる視程障害を緩和し、同時に高い吹き払い効果を発揮してドライバーの安全を確保する(図参照)。また、従来の吹き払い柵は、主に下部間隙からの吹き出しにより効果を得ていたため、下部空間が堆雪や除雪などで塞がれると、著しく効果が低下していた。しかし、スノーブレイドは翼間を通る風によって機能的な製品の開発に力を入れていきたい」と話している。



青森県内で採用、設置されたスノーブレイド



ため、基礎部分をコンパクトにできることから、コストの削減も実現する。風洞実験や、実物大模型による風流線観測等を実施し、効果も実証済みで、同社はその高い性能に自信を持っている。

理研興業は、カラマツ間伐材と鋼材を組み合わせた景観性能を追求した『木製高性能防雪柵』や、『上下分流型防雪柵』、『斜風対応型防雪柵』など、それぞれの地域の様々なニーズに応える製品を次々に開発。各地で着々と設置実績を伸ばしており、同社の柴尾社長は「冬季における道路交通の確保は本道の大きな課題であり、高度化するニーズにこたえていくことは、専門メーカーとしての生命線。今後も当社と立山アルミの技術力を生かし、より高性能な製品の開発に力を入れていきたい」と話している。

詳細問い合わせは、理研興業(小樽市銭函三丁目一六三番地七、電話〇二三四六二〇〇三三、FAX 6210088)まで。